

【成美地区】地方創生意見交換会（結果）

日時：平成 27 年 6 月 23 日（火） 19：30～20：55

場所：成美地区公民館 研修室

1. 参加者	参加者 17 人、職員 4 人（小松副町長、遠藤企画情報課長、山根、佐藤）
2. 開会	小松副町長（あいさつ） 遠藤課長（資料の説明）
3. 主な意見	<p>●コトウラで育む</p> <ul style="list-style-type: none">・結婚していない人への対策。・結婚のイメージをよくする取り組みが必要。・ミオ・ファティニティ・クリニックの葉山看護師の講演など、命や性教育の取り組み。・子育て支援センターは人育ての拠点なのに、来年度の統廃合はいかななものか。・地域に保育園がなくなり、子どもがいなくなると活気もなくなる。合併ばかり考えず、子どもが 1 人・2 人になっても保育園を存続していかないといけない。 <p>●コトウラで創る</p> <ul style="list-style-type: none">・娯楽や企業や何もないので若者は帰ってこない。根本的なところで、プロジェクトなどつくって働ける場を作る。・企業は人手が足りないと言っても、ハローワークには出てない。ハローワークに出して募集してもらおうよう行政から掛け合ってほしい。・企業誘致でかなりのお金をかけても、必ずしも住民の希望にかなうものというわけでもない。お金をかけて誘致して、本当に琴浦町が潤うのか、出ている子どもが帰ってくるのか、これまでの反省も踏まえて検討を。・採用してくれたら企業に 5 年間補助するなど琴浦方式の補助制度をつくり、米子などの企業から行政が求人を取って来て、その企業を紹介するなどをしてもらいたい。その方が魅力ある企業に就ける。よそと同じことをしていても生き残れない。企業誘致などのお金をそちらに回し、帰って来た人材を紹介していくようなシステムを作る。やっているのなら情報を出してほしい。・物づくりに魅力を感じる人は多い。ポリテクセンター（職業能力開発促進センター）等の情報を発信する。・琴浦の産物を加工した、企業の製品開発に支援する。新しいものを発掘し、県と町がタイアップして販路を拡大する。・農業の 6 次産業化は県の補助はだいたい 1/2 で、そこに町独自の補助金をつくって支援する。・食料だけでなく、すべて自給自足で暮らせる町づくり。作って売れるルートを町内で整備する。

	<p>●コトウラで輝く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光で来られる人に何か付加価値をつける。学校跡地などを利用し、何かを学べるツアーなどを実施。学べ、観光でき、寄り添ってくれる町。 ・よそにはない仕組みづくり。 ・以西の池田家など、船上山を機軸とした新しい観光ルートの掘り起こし。 ・人づくりが大事。リーダー的な人や、まちづくりに意欲のある人を育てるため、今の取り組みを分かりやすく町民に知らせる。人づくりは全部に関わること。 <p>●コトウラに根づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IJ ターンより U ターン支援の充実を。U ターンは次の世代に繋がる可能性がある。今は家庭まかせだが、それを町と一緒にやってやる。名簿を作って対象者を把握し、動機付けとなるような取り組みをしては。 ・U ターンで帰ってくる人が町営住宅に入りにくい。家庭を持ってU ターンしてくる人が意図する住宅に入れるよう、要件の拡大などを。 ・町営住宅は、収入が上がると家賃も上って町外にも出て行ってしまいうので、安いまま暮らせるように。
4. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのテーマそれぞれ疑問。子育てしやすい町というが、保育園の合併で地域に子どもがいない状況は問題。農業以外の支援はどうか。色々な制度があるというが、制度は暮らしを守るために作られているのに、知らされていない。「守られていない」と感じる。 ・外国籍の正規雇用が少ない。 ・行政だけでなく、プロジェクトチームを作って施策を考えていく。 ・外向きばかりの政策だけでなく、今ここに住んでいる人が幸せでニコニコでしている町だったら、人は入ってくる。そんな町になってないのに、外にばかり金を使ってもいけない。住んでいる人を大事にした施策を。 ・特色ある政策を早くしないと生き残れない。